



伏見生へ

その1



新任の先生からのおすすめ本



*館内で展示予定。蔵書にない本は可能な限り購入します。

第2弾は次号(7月発行予定)に掲載します。

桶川 政江校長先生(英語)

『23分間の奇跡 = The Children's Story』
James Clavell 著

ある学校にやってきた新しい先生が、クラスの子供たちの心をとらえるまでの23分間を描いた物語です。

大学時代に英語教育学の先生から紹介されて読んだ本です。教育の力や怖さについて考えさせられます。この本を読み返すたび、教員としての責任の重さを痛感します。将来子供の教育に関わろうと考えている人、そして先生方も、ぜひ読んでみてください。

浅尾 幸代副校長先生(福祉)

「ブッタとシッタカブッタ」シリーズ

小泉吉宏 著

なかなか奥が深い本です。マンガですが…。

池田 成壽先生(地歴公民)

『これからの出来事』星 新一 著

『砂の器』松本清張 著

本が苦手で、短いものから始めたいならば前者を、本が好きで、長編でも読めるというならば後者をお勧めします。

中川 裕恵先生(保健体育)

『コーヒーが冷めないうちに』川口俊和 著

「コーヒーをカップに注いでから、コーヒーが冷めてしまうまでの間だけ過去に戻ることができる」という喫茶店で繰り広げられる4つの物語が描かれています。

後悔や悩みがあって、もう一度過去に戻りたい、ということは誰にでも経験があることだと思います。この本の中で、過去には戻っても現実はいまのまま変わりませんが、それぞれの大切なことに気付いていきます。私は本が好きでよく読みますが、何年か前、心が疲弊していた時、久しぶりに小説に触れました。ジーンと心に染みわたりました。

小原 広美先生(英語)

『わかりやすさの罫:池上流「知る力」の鍛え方』

池上 彰 著

みなさんは世界で起きていることについて知りたいと思ったら何をみますか。

今はスマホという便利なものがあるので、さっと検索して情報を得ることができます。だけど、それで済ませてよいのでしょうか。わかったつもりになっていませんか？

「知る」ってそんなものじゃないよ、ということをお教えられる本です。

テレビを活躍の場の一つとしている池上さんならではのテレビの裏側の話も興味深いものなので、気軽に手に取ってほしいです。

岡田 直道先生(保健体育)

『楽園のカンヴァス』原田マハ 著

6年前くらいに出会った本ですが、この本をきっかけに芸術との向き合い方が変わりました。

ぜひこの本を読んで美術館へ出かけてほしいです！

松生 尚子先生(養護教諭)

『ウンココロ:しあわせウンコ生活のススメ』

寄藤文平、藤田紘一郎 著

この本に出会い、トイレに行くことが楽しみになりました。

みなさんもステキなウンコとの出会いを。

